

第167回 山行記 茅ヶ岳（1,704m 山梨県） 2022/10/24

参加者11名（男性6名・女性5名）



今回の山行は、「百の頂に百の喜びあり」で知られる深田久弥氏終焉の地となった奥秩父山系に位置する茅ヶ岳。2009年以降4回目の山行となる。気になる天候は曇り、午後時々みぞれマークもあり多少の寒さは覚悟しつつも不安の中、11名を乗せたバスは予定どおりに出発。

谷津船橋 IC（5:50）から湾岸道～首都高を経て中央道に入り談合坂 SA にて休憩（7:10～7:30）～韮崎 IC～深田記念公園駐車場・登山口に到着（標高940m）（8:30）。

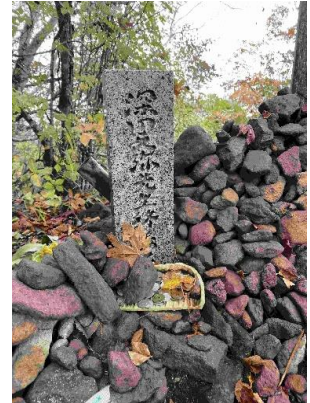
バスを降りると登山口である駐車場では、すでに小雨が降っていた。きれいなトイレもあり、準備体操をすませて雨具を身に着け出発です（8:50）。

登山道入り口から30分程で林道分岐に到着（9:20）。休憩をとり衣類調整をする。その先の左に分かれる林道をわずかに登ったところに深田久弥記念公園があるが、そのまま先へ進む。落葉広葉樹林の中の気持ちよい道をしばらく登っていく。

女岩で休憩（10:05）。この頃には雨もほとんど気にならなくなり、雨具を脱ぐ人もちらほら、このあたりから樹林帯の大きな岩場を挟んだ急登の始まり。休憩（10:35）。水分補給。



女岩コル（11:00）。コルってなに？ 日本語で鞍部とのこと、尾根上のピークとピークの間にくぼんだ場所を指すらしい。思いのほか厳しい傾斜を登ること30分、「深田久弥終焉の碑」に到着です。狭いところだが小さなケルンが積み、お花が供えられています。思い思いに写真を撮り、手を合わせる（11:05～11:10）。



最後の急登を登りきること15

分、茅ヶ岳山頂に着いた（11:30）。晴れた日の頂上からは、奥秩父の山々や甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山など南アルプスの山々が見えるらしいが、今日は雲が多く少しだけ見ることができた。



比較的広い岩場の山頂で、昼食をとり英気を養う。

余裕の残る笑顔で記念写真を撮り、雨の心配もなくなり下山準備を終えた頃、あちらの岩場に目をやると、上りで踏みしめてきた数種の落ち葉が綺麗に並べられていた。Yさんによる「落ち葉3分講座」に耳を傾けた。記憶に残る落ち葉の名前は、イタヤカエデ、

ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、山モミジ、ナラや山ぶどうの葉など。Yさんは1時間ほど前に山ぶどうの実を食べていたが、その後何事もおこらなかったことに安心し、みんなで一粒ずつ食べてみた。完熟のせいか、酸味は少なくなつかしい味がした（11:40～12:10）。

下りは尾根コースに行く。登り同様に急斜面なので濡れている落ち葉に足を取られないように慎重に下り始める(12:15)。



休憩（12:55）。薄日が差す急斜面を、お喋りと景色を楽しみながら空を見上げれば青空も見え始め、黄金色に染まった紅葉が木漏れ陽とともに輝いていた。

休憩（13:50）。二度目の休憩を取り、ところどころで目にした花はトリカブト、リンドウ、マムシグサ、可愛い小菊はリュウノウギク、アザミのような花はオヤマボクチ（雄山火口）と後で教えていただいた。深田記念公園駐車場に無事に到着(14:20)。

トイレと整理体操をすませたあとは、バスは次の目的地である本坊酒造・マルス穂坂ワイナリーへ向かい、15分後に到着（14:45）。待っていた案内の方につづき見学、説明を受けるが心は芳醇なワインの香り漂う「ビジター棟」へ。数種類のワイン（40cc 200～500円）の試飲をひと時楽しみ、お土産に買ったワインを抱えてバスに乗り、習志野へ向けて出発（15:20）。

途中、石川SAにて休憩（16:45～17:00）。とくに渋滞もなく谷津船橋ICにほぼ予定どおりの到着でした。（18:20）。

落ち葉に足を滑らすこともなく全員無事に帰りましたことに感謝です。皆さまお疲れ様でした。

（Y・S記）

